

徐々に、将来性のある日本のインターネット企業と出会った

齋藤 茂樹 (エス・アイ・ピー株式会社 代表取締役社長)

エイベック研究所のことを知ったのは、4年前、投資先の候補として紹介を受けたことがきっかけです。武田さんからビジネスモデルを聞き、すぐに「これは将来性がある」と思いました。ベンチャーキャピタリストとしてさまざまな会社を見てきましたが、日本のインターネット関連企業は、アメリカのビジネスモデルを、日本で展開しようとするものが大半でした。それだけではやはり、成長余地が少ない。しかし、エイベック研究所は違いました。徐々にインターネットの分野で、見込みのある企業が現れた、と高揚しました。オリジナリティのあるプロダクトを開発していて、しかもそのモデルが本質をついている。特に、感度の高いビジョナリーユーザーをいろいろな分野において抱え、クロス・マーケティングができるメディアをつくるというコンセプトは、今まで聞いたことがないものでした。これは、本質的にインターネットを捉えていないと、出てこない発想です。日本だけでなく、将来は海外にも展開できると感じました。

現時点で、オンライン・グループインタビューは、日本人だけでなく、海外の人に対してもうまく応用できることが証明されています。この手法は、世界何十カ国に展開しているグローバル企業のテストマーケティングにも活用できるでしょう。自動翻訳などで言語の問題が解決すれば、海外のマーケティング担当者がビビッとくるようなメディアに育っていくはずです。そういったイメージを持っているので、長い目で楽しみにしています。また、海外進出に悩む日本企業にとっても、低コストで現地ユーザーの声を丁寧に取り入れることは、問題解決の糸口が見つかる一助となります。

武田さんは、オンラインコミュニティの事業に人生をかけ、逃げずにやってきた人です。僕はそういう社長が好きなんです。絶えず本を読み、膨大な知識を咀嚼して、自分なりのコンセプトに落としこむ。そういったビジネスへのアプローチの仕方もいいですね。「ソーシャルメディア進化論 2013」の連載を読むと、日本にいる数少ない本物の「インテリ」を武田さんが探しだしているように見えます。経済学や社会学など、様々な専門知識をもった方たちが、インターネットを熟知している武田さんと対談することで、インターネットが普及することによる環境変化、人間の変容の本質を再発見していく。その過程を見ることが出来る稀有なコンテンツです。どんな人と武田さんを対談させたらおもしろいか、ということを考えながら、いつも楽しみに読んでいます。